

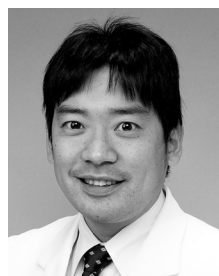
## 学会記事

### 第51回徳島医学会賞及び第30回若手奨励賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなり、初期臨床研修医を対象とした若手奨励賞は第238回徳島医学会平成20年度冬期学術集会（平成20年2月15日、長井記念ホール）から設けられることとなりました。徳島医学会賞は原則として年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各回ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られ、若手奨励賞は原則として応募演題の中から最も優れた研究に対して2名に贈られます。

第51回徳島医学会賞および第30回若手奨励賞は次に記す方々に決定いたしました。受賞者の方々には第268回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金及び記念品）が授与されます。

#### 徳島医学会賞 （大学関係者）



氏 名：和田佑馬  
出身：徳島大学  
所属：徳島大学大学院医歯薬学研究部 消化器・移植外科学分野

研究内容：消化器癌における診断マーカーの臨床的有用性

受賞にあたり：

この度は、大変栄誉ある第51回徳島医学会賞に選考いただき、誠にありがとうございます。選考委員の先生方、ならびに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

私の研究内容ですが、胃癌腹膜播種は非切除因子の中で最も頻度が高く、さらには予後不良因子の一つであると報告されています。しかしながら、胃癌腹膜播種を診断するためには、全身麻酔下に侵襲的な審査腹腔鏡検査を行う必要があります。そこで、われわれは以前より包括的遺伝子解析から重要な miRNA や遺伝子の検索を行

い、臨床検体を用いて臨床応用可能な分子学的探索研究を報告してきました（Wada Y, *et al.* Gastroenterology. 2021. Hepatology. 2021. Eur J Cancer. 2022など）。また、近年血漿エクソソーム内包 miRNA（exo-miRNA）が低侵襲なバイオマーカーとして着目されていることから、本研究では、胃癌腹膜播種予測における exo-miRNA の有用性について検討しました。

TCGA と GEO の包括的データセットを用いて、胃癌腹膜播種に特異的な miRNA を同定しました。治療前の血液サンプルを採取し、エクソソームを回収した後に、同定された miRNA を回収したエクソソームから抽出し、Real time-PCR 法を用いて測定しました。対象は当科で進行胃癌と診断され、審査腹腔鏡検査を施行した51例の血液検体を用いて、exo-miRNA の発現と腹膜播種診断との関連を検討しました。

包括的データセットから胃癌腹膜播種に特異的な4つの miRNA を同定しました。4つの miRNA から胃癌腹膜播種の子測式を作成し、血液検体の exo-miRNA で検証し、遜色ない結果でありました（AUC:0.83）。腫瘍マーカーと exo-miRNA からリスクモデルを作成し、腫瘍マーカーより鋭敏に腹膜播種を予測する事が可能でありました（AUC:0.94）。上記の結果より、胃癌腹膜播種診断において exo-miRNA は有用な非侵襲的バイオマーカーと考えられ、今後の消化器癌における診断マーカーの開発に有効なツールになる可能性があります。

最後になりますが、このような貴重な研究経験や発表機会を与您と下さり、御指導賜りました島田光生教授、消化器移植外科教室の先生方、実験助手の皆様がこの場を借りて深く感謝申し上げます。

#### （医師会関係者）



氏 名：影治照喜  
出身大学：徳島大学医学部医学科卒（昭和63年卒）  
所属：徳島県立海部病院 脳神経外科 副院長

研究内容：過疎地域病院に対する専門医による5G遠隔診療 ～実証から実装へ～

受賞にあたり：

この度は第51回徳島医学会賞に選考して頂き誠にありがとうございました。ご選考して頂いた諸先生方や関係

者の皆様に感謝申し上げます。

私は、徳島大学病院で脳神経外科医として勤務していましたが、海部地域の医師不足が深刻になっていたことからその一助になればと考え、2015年に海部病院に異動し8年目を迎えています。海部病院では慢性的な医師不足から、専門的な診療が海部病院で困難なことがあり、多くの患者さんを県中央部医療機関に紹介せざる得なくなりました。地域住民にとっては、高齢者が多く、交通移動手段も昨今の社会的状況から限られており、治療のための通院や入院負担が非常に大きくなりました。海部地域は人口減少と高齢化が顕著に進んでおり、都市部よりは専門医医療が必要な患者数は絶対的には少ないですが、全く不要というわけではありません。医療側の視点で考えると、医師を大病院に集約化したほうが医療経済的に効率的ですし、医師の負担も軽減します。これは、昨今、社会的な問題となっている「医師の働き方改革」の観点からも合理的です。当院のような、過疎地域医療機関で、地域住民のために、医師の負担を軽減しながら、専門医による高度な医療を実践していくためにはどのようにしたらいいのかが、わたしたちの病院だけでなく、現在の日本に課せられた課題と言えます。

当院の外来支援をして頂いている県立中央病院 代謝・内分泌内科 白神敦久先生が、既存のテレビ会議システムを用いて2018年から遠隔外来を中央病院と海部病院間で、徳島県で初めて開始されました。ちょうどその頃、私が懇意にしていたNTTドコモ四国支社の営業マンから、「5G回線がこれから主流になる（この時期はまだ4Gのみでした）ので、実験的に医療の場で役立つような実証実験ができないか」との相談を受けました。4G映像品質では会議には用いられるものの4K画像のような高精細な画像伝送が困難であり、5Gを使って、当院と中央病院間で遠隔外来に応用できないか提案したところ、見事、会社のコンペティション実証実験として採用されました。2019年から準備にかかり、1年後の2020年1月に1ヵ月間、内視鏡、超音波、外来診療、救急外来で実証実験を行いました。伝送された画質は素晴らしく、遅延もなく、すぐにでも臨床応用できるのではないかと期待を持ちましたが、電波環境の整備や接続に時間を要したことから即座の利用には至りませんでした。その後の技術革新、徳島県とNTTドコモとの連携協定があり2021年から本格的に5G遠隔医療が開始となりました。遠隔外来を利用する患者数は2022年にはそれまでの3倍に増加し、糖尿病だけでなく、形成外科、呼吸器外科も

参入となりました。また緊急で内視鏡検査も行っています。2023年5月には県立中央病院ER棟の開設に伴って専用の遠隔外来室が設置されました。今回の発表は、これまでのわれわれの遠隔医療の歩みを救急医療も含めてまとめたものです。

ローカルやキャリア5G回線を用いて、「5G遠隔外来診療」だけでなく、内視鏡検査や超音波検査、手術など大容量の動画を高精細で遅延なく送信することができます。また、病院間の医師同士の救急医療支援や、救急車と病院間を結んで救命救急士の医療行為を支援する実証実験も昨年からは総務省の支援で行っています。今までは、医師が患者を直接に見て触れて診察する「対面診療」が医療の基本で常識でありましたが、このコロナ禍で普及した「オンライン診療」が後押しとなって、通常医療、救急医療の場面で遠隔診療が対面診療を補完する形で全国に波及しつつあります。われわれの取り組みはまさしく「医療Dx」です。現在のデジタル技術を用いて、医療の分野でトランスフォーメーション（変革）を図ることそのものです。海部病院は、過疎地域の小さな病院ではありますが、この医療Dxの最先端病院として、全国のプロントランナーとしてありたいと考えています。

最後になりますが、遠隔医療に携わっているすべての関係者の方々に感謝申し上げます。この事業は医師だけの力では行うことはできず、産学官が協調して初めて推進することができます。海部病院は、「地域に寄り添い愛される病院になる」ことを病院理念として掲げています。この理念の継続のために職員一同精進してまいり所存です。今後も皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

#### 若手奨励賞



氏名：三宅南帆  
出身大学：徳島大学  
所属：JA徳島厚生連阿南医療センター

研究内容：2型糖尿病患者における推定塩分摂取量に関わる臨床因子の探索

受賞にあたり：

この度は徳島医学会第30回若手奨励賞に選考いただき、誠にありがとうございます。選考いただきました先生方、

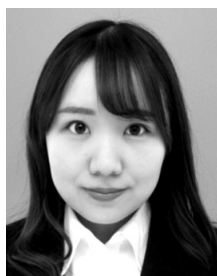
並びに関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

糖尿病患者が高血圧を合併すると脳心血管イベントの発生頻度が増加し、予後が悪化するため糖尿病患者の血圧管理は重要です。また、高血圧診療を行う上で生活習慣の是正、特に減塩が重要であることは広く知られています。有効な減塩指導を行うため、糖尿病患者の推定塩分摂取量に影響を与える臨床指標の探索を本研究の目的としました。

今回の研究では、阿南医療センター内科に通院中の2型糖尿病患者268名の推定塩分摂取量と臨床因子や使用薬剤との相関を検討しました。結果として、BMIが正の相関を示し、尿酸及び、 $\alpha$ グルコシダーゼ阻害薬 ( $\alpha$ GI) が負の相関を示しました。

この結果から、2型糖尿病患者における推定塩分摂取量には、BMIが増加因子、尿酸と $\alpha$ GIが抑制因子であり、2型糖尿病患者における体重管理と $\alpha$ GIの使用は適正な塩分摂取や吸収に寄与する可能性があることが示唆されました。

最後になりましたが、このような貴重な経験および発表の機会を与您くださり、ご指導賜りました粟飯原賢一先生をはじめとする徳島大学大学院実践地域診療・医科学分野および阿南医療センター内科の先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



氏名：矢野花佳  
出身大学：徳島大学  
所属：徳島大学病院卒後臨床研修センター

研究内容：関節リウマチに対する治療経過中に発症した肝類洞閉塞症候群の一例

受賞にあたり：

この度は徳島医学会第30回若手奨励賞に選出いただき、誠にありがとうございます。選考してくださいました先生方、並びに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の症例は、関節リウマチの治療経過中に発症した肝類洞閉塞症候群 (SOS) の一例です。

肝類洞閉塞症候群は、肝臓の類洞内皮細胞が障害され閉塞することで生じます。有痛性の肝腫大、黄疸、腹水貯留を特徴とする疾患で、多くは造血幹細胞移植後におけるアザチオプリン長期投与やオキサリプラチンなどの

抗悪性腫瘍薬の投与、放射線治療などにより発症すると言われています。本症例のように、関節リウマチ治療中の発症例は今までになく、まれな病態であると考えられます。

本症例において発症した機序については、抗リウマチ薬および関節リウマチを背景とした自己免疫機序による慢性炎症の相互作用により類洞内皮傷害をきたしたものと考察いたしました。

肝類洞閉塞症候群における、最も確実な診断法は肝生検における病理組織診断において、血管内皮の浮腫や出血、繊維化による中心静脈の閉塞などの所見を認めることですが、他の合併症など出血のリスクが高い場合はなかなか経皮的肝生検を行うことはできず、本症例で行った経頸静脈的肝生検の実施が検討されうと考えます。

最後になりましたが、このたび貴重な発表の機会を与您くださり、ご指導賜りました徳島大学病院消化器内科の三橋威志先生、高山哲治先生をはじめとする先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。